

(環境) 下山小学校 3, 4年
下山の生き物を守ろう

5月～12月(25時間)

1 ねらい

本校では、平成12年度から生活科や総合的な学習の時間において、どの子ども生き生きと学び、学習することの楽しさや喜びを感得できる単元構想や授業展開の在り方を研究してきている。中でも、ササユリの育苗・保護活動や稲作を軸とした大規模校との交流学习など、ふるさとを愛する学びを大切にし、下山の特色ある活動を展開してきている。本校は全校児童25名の小規模校であり、3、4年生は5名の複式学級である。4年生は学級の上学年としてリードしていこうという気持ちにあふれている。意欲的な子ども達であるが、知りたいことや学んだことなどを自分の思いと合わせて分かりやすく伝えることは苦手である。朝のスピーチでは、見たこと、聞いたことだけを述べて終わってしまう子がいる。また、限られた人間関係だからか、思考の広がりや乏しく、友達の考えに左右されやすい傾向にある。また、豊かな自然の中に生活をしているが、それが当たり前となっており、自然のありがたみや自然環境を考える意識も薄い。そこで、本学級の子ども達には、身近にある自然を取り上げ、人と関わり合いながら自己表現する喜びを感じさせ、地域を大切にしようとする思いを高めさせたいと考えた。そして、自然環境を支えるために日常生活で何ができるかを考え、実践できる力を養いたいと考えた。

2 実践の概要

①わたしたちの地域の植物を調べよう

豊かな自然に囲まれて生活している子ども達だが、校庭にある草花の1つを見せると、名前や特徴など何も答えられないことが多い。そこで、校内にある草花をとり、机に並べてみた。思った以上にたくさん種類があることに驚いた。すると、「名前が知りたい。」とつぶやき、図鑑を取り出す子がいた。身近な自然に興味を持ち始めた瞬間だった。

図鑑を広げると、似たような植物と区別がつきにくかったり、調べたいものが載っていなかったり行き詰ってしまった。そこで、自然観察指導員の河江先生に教えていただく機会を設定した。先生からは、植物名だけでなく遊び方を教えていただいた。「なるほど！」と子どもたちの目が輝いた瞬間だった。

②みんなに知らせたい

身近な植物について、たくさんのことを学んだ子ども達は、このことを「全校に知らせたい。」と思うように変化した。そこで、実物を標本にすることにした。そして、どこに生えているか、特徴や遊び方なども載せようと話し合いで決まった。作った標本は図書室に置き、だれでも見るようにした。すると、他の学年から「地図はもっと色分けしたほうが見やすいよ。」とアドバイスを受けた。その結果、もっとよくしようと思いが生まれ、秋の植物をまとめた時は色や似ている植物の名前を書き加えるなど、表現の仕方に変化が生まれた。



河江先生による自然観察



③ササユリいっぱい計画

下山といえばササユリである。そのササユリがだんだん減ってきている。今までの数年にわたる調査で、その原因は、イノシシなどの動物が球根を食べたり、人間が持って行ってしまいますことだと分かった。校内のササユリもイノシシに食べられたり、発育条件が悪かったりと減少傾向にある。「学校をササユリのかおりでいっぱいになりたい。」という共通の思いから、どうしたらササユリを増やせるのかという話し合いの時間を十分に確保した。

まず、たくさんササユリが生息している地域の様子を調べてみることにした。その結果から、「斜面であること」「東向きの斜面であること」「土の種類」「周囲の草の生え方」の4つに関係していることが分かった。そこで、この結果を全校に知らせることにした。「みんなに知らせれば、これから学年が変わってもササユリを守ろうと考えて活動できるから。」という子ども達の願いがそこにはあった。子ども達の伝えたいという思いがさらに強まったことが分かる。

④地域の人に教えてもらおう



地域の方と球根を植える

何年も続いているササユリ活動、そこにはササユリを愛する地域の方の協力が多大にある。今年の活動でも、たねや土の準備、植え方や育て方のコツなど一つ一つ丁寧に教えていただいた。特に、本年度は「学校から広げていこう。」という思いをもとに、校庭の外側に球根を植えた。樹木の根が張っているその場所は、子どもの力では土を掘ることができなかった。地域の方に掘ってもらい、無事に球根を植えることができた。同じ活動をする中で、植え方や育て方のアドバイスを聞くことができた。自分たち以上にササユリを大切にしていきたいという地域の方の思いに触れることができ、「守っていこう」という思いがさらに強くなった。自分たちの活動が地域の協力を得て成り立っていることをしっかりと感じることもできた。

3 実践を振り返って

朝、教室に入ると「先生、これなんていう名前か知ってる？」と声をかけてくる子がいた。その子の手には、道端に生えていた草が握られていた。今まで身近にあるものにあまり関心を示さなかった子ども達の変化が見えてきた。「水をあげてくるね。」と、休み時間になるとジョウロをもって走る姿があった。今、自分ができることを考え、少しずつではあるが、行動できるように変化してきている。



ササユリの生育調査



ササユリ生育状況の発表



水やり